



Good News for Japan

平成二十七年十一月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)

明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

イエスは命のパン

石川 和男



手から手へ—街頭で生活する人々への支援は、通年でおこなわれている

一、キリストの給食
イエス・キリストは町々村々を巡り、神の国について教え、人々の病を癒されました。また時には、給食のように、五千人に対し、五つのパンと二匹の魚でそのすべての胃袋を満たされ

ました。そのパンくずを集めると、十二の籠にいっぱいになった、と聖書は記しています。そして、こう言われました。
「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えること

がなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」(ヨハネによる福音書 6章35節)
この物語を通して、キリストの中には無尽蔵の豊かさがあることを知ることが出来ます。人は衣食住が足りて、毎日面白おかしく暮らせても、魂(生命や精神活動の中心)に飢え渴きがあるなら、本当に「生きている」とは言えないでしょう。自分の罪に苦しみ、あえぐ、人の救いのため、イエス・キリストは、十字架で贖いの死を遂げてくださいました。この「わたしが命のパンである」とは、イエス・キリストの十字架の死と復活を示しているのです。

二、キリストの言葉が、人の魂に作用し、心の化学変化を起こす
救世軍では、街頭で生活する人々を支援する活動をおこなっています。折々に食料や日用品を配布し、必要な時には社会復帰の相談に応じ、社会復帰する人が起こされています。
それまでの悪循環から立ち上がるためには、本人の「自分は変わりたい」との強い願いが必要です。支援活動から救世軍に来るようになった方が、今、

三、人が本来もっている命の輝きは、キリストによって引き出される
現代人の魂は漂流しています。どう生きてゆけばよいのか、何を生きがいにするればよいのか、と。
イエス・キリストの言葉と奇跡は、人間を丸ごと包み込むものです。彼に触れる者はみな、魂の根底から満たされ、潤されます。
五千人の給食で、人々は、ただ単に満腹したのではなく、キリストより溢れ出る愛に気づいたのでした。人は豊かな愛に触れる時、その心を開き、自らの命を輝かせ始めます。

救世軍の病院に導かれた一人の女性を知っています。天涯孤独で癌が体中に転移しており、本人も死を覚悟している様子でした。彼女は、たくさんの傷を抱えていました。スタッフに心を閉ざし、表情は固いままでした。けれども、スタッフが注意深く彼女を観察し、安心して過ごせるよう配慮するうちに、彼女は少しずつ自分のことを話すようになりました。表情は柔らかくなり、口からは、感謝の言葉が出るほどに変えられたのでした。病院で、イエス・キリストの愛に触れたこの女性は、今、救世軍の墓所で眠っています。



命のパンであるキリストには、神様の愛がぎゅっしり詰まっているのです。
(救世軍士官(伝道者))

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

救世軍の病院に導かれた一人の女性を知っています。天涯孤独で癌が体中に転移しており、本人も死を覚悟している様子でした。彼女は、たくさんの傷を抱えていました。スタッフに心を閉ざし、表情は固いままでした。けれども、スタッフが注意深く彼女を観察し、安心して過ごせるよう配慮するうちに、彼女は少しずつ自分のことを話すようになりました。表情は柔らかくなり、口からは、感謝の言葉が出るほどに変えられたのでした。病院で、イエス・キリストの愛に触れたこの女性は、今、救世軍の墓所で眠っています。

救世軍の病院に導かれた一人の女性を知っています。天涯孤独で癌が体中に転移しており、本人も死を覚悟している様子でした。彼女は、たくさんの傷を抱えていました。スタッフに心を閉ざし、表情は固いままでした。けれども、スタッフが注意深く彼女を観察し、安心して過ごせるよう配慮するうちに、彼女は少しずつ自分のことを話すようになりました。表情は柔らかくなり、口からは、感謝の言葉が出るほどに変えられたのでした。病院で、イエス・キリストの愛に触れたこの女性は、今、救世軍の墓所で眠っています。

〈信仰の体験談〉

神様の豊かな恵みの中に生かされて

野本亮一



ウス」に通い、そこに集まるクリスチャンたちとの交流に居心地の良さを感じていました。

十月に、中沢さんのお姉さんで、「ジーザスハウス」の共同経営者である、救世軍長野小隊(教会にあたる)の信徒の方から、

「礼拝に来ない？」と誘われ、初めて長野小隊に行きました。聖別会(礼拝)の後、昼食をいただき、

「夕飯も食べて行けよ」

とお誘いに甘え、小隊長牧師にあたる」といろいろな話をしました。

特に「真理」について話したことを覚えています。当時私は「事実を丁寧に検証していく過程で、真理が明らかになる」と漠然と考えていましたが、小隊長は、聖書の中に、

「お前は自分の力で生きていくのではなく、豊かな恵みの中で生かされているのだよ」と示してくださいました。罪からの解放についても「自分の力に頼るのではなく、既にイエス・キリストの十字架によって贖われているのだから、ただ信じなさい」と教えてくださいました。

長野小隊での信仰成長

それからは、長野小隊に頻繁に通いました。聖書を読み、ギターで賛美し、関東地区の青年たちのグループ「ラブ・メッセンジャーズ」のメンバーとして活動する中で、ク



大学生時代(2列目左から2人目)

私のささやかな半生ですが、振り返ると神様の豊かな祝福の中にあつたことを感謝します。

「わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。」(エフェソの信徒への手紙1章3節)

生い立ち

私は、父母と妹の四大家族の長男として大阪府守口市で生まれ、小学生から高校卒業まで兵庫県西宮市で過ごしました。ノンクリスチャンの家庭でしたが、小学生の時に、一度だけ友人に誘われ日曜学校に行ったことがあります。しかし、「*1」らくだが針の穴を通る」話がつまらなくて、

続けて行くことはありませんでした。

中学から高校時代は、ブラスパンド部でフレンチホルンを吹いていました。コンクールでは常に上位に入賞する学校で、練習の厳しい学校でした。また、個人的に市民オーケストラにも参加していました。

高校時代の後半は、ホルンよりもギターに夢中になりました。深夜放送の影響もあり、バンドを組んで文化祭に出演したり、社会人サークルに入ってコンサートを開催したりしました。

大学時代―山で遭難―イエス様との出会い

高校卒業後は信州大学工学部に進学しました。松本から眺める北アルプスの美しさに魅了されて、登山に夢中にな

りました。

三年生になった六月、新入生を連れて徳本峠を越えて上高地に入った後、仲間四人で蝶ヶ岳を越えて松本に戻ろうと、軽い気持ちで山に入りました。しかし、雨と霧で視界を閉ざされ、雪に隠された夏道を見つけることができず、山頂から下山するところで迷ってしまいました。日暮れ前に稜線の避難小屋にたどり着き、少しのビスケットとチョコレートで飢えをしのぎ、寒い不安な一夜を過ごしました。

翌朝は快晴でした。小屋を出ると、目の前に穂高連峰がそびえ立ち、残雪を抱いた峰



峰はモルゲンロート(朝焼け)で黄金に輝いていました。その時に、生きていることの不思議さ、「自分の力で生きているのではないだろうか」と感じ、自然の摂理について考えさせられました。

大学でも、ギター仲間とバンドを組み、喫茶店などでライブ活動をしていましたが、そんな音楽仲間の一人が、「ジーザスハウス」(キリスト教の伝道喫茶店)を経営していた中沢昌美さんでした。彼とは音楽の趣味が同じで、一緒にギターを弾き、コーヒーを飲むようになりました。そして、キリスト教への興味が深まっていきました。その夏、軽井沢のバイブルキャンプに誘われ、聖書の基本的なことを知りました。その後も「ジーザスハ

ウス」に通い、そこに集まるクリスチャンたちとの交流に居心地の良さを感じていました。

「今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。」(ローマの信徒への手紙 8 章 1 節)

その頃、イエス様を信じて新しく歩み始める人を励ます気持ちで、次のような曲をつくりました。

新しい旅

(作詞・作曲野本亮一)

さあ旅に出よう

夢を追いかける

靴はボロボロだけど、

新しい君さ

雨風強くても

大空見上げる

イエス様一緒に ハレルヤ!

(中略)

新しい旅だよ これから君の

新しい命さ

イエス・キリストの

「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリントの信徒への手紙 2 5 章 17 節)

心と向き合った「傾聴ボランティア」

結婚をして、地元関西に戻り就職し、大阪にある救世軍天満小隊に籍を移しました。その頃、自殺防止の「傾聴ボランティア」を始めました。二年間の研修後に、相談員と

して認定され、クライエント(来談者)の話や聴くようになりました。そして、継続研修の中で自分の心と向き合う時間をもったことは、信仰の成長にとって非常に大切な経験となりました。

クライエントとの会話を逐語録に書き、スーパーバイザーのアドバイスをもらい、自分の心の動きを分析すること

で、自分の心の歪みに気づかされました。カウンセラーは

クライエントの心を映し出す鏡と言われます。歪みのない鏡になるためには、純粹な真理の御言葉に素直な心で向き

合い、自分の心を吟味することが大切であると考えています。聖書に

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙 12 章 15 節)

とありますが、共感することの難しさと、今でも格闘しています。

その後、仕事の転勤で、東京に約二年間、そして神戸に約四年間、その後、静岡県沼津市に転居しました。

父の最期と母の洗礼

父は、読書が趣味で、様々な本を読んでいた。その中には、聖書に関するものから、仏教の本、コラーンも含まれていました。父は「真理」を求めていたのでしょうか。

父は癌にかかっていました。癌はだんだん進行していき、亡くなる二年前には脳に転移してしまいました。在宅療養を希望していた父母を訪問してく

ださったのが、クリスチャン医師の関本雅子先生でした。

また、当時、私が所属していた沼津キリストの教会の牧師の紹介で、宝塚市の恵みキリス

トの教会の池田牧師が、月に二、三回、芦屋の実家を訪問してくださいました。父は、

賛美歌を口ずさみ、聖書の御言葉とメッセージを聴く時間を楽しみにしていました。また、そのような生活を、関本

医師が励ましてくださいました。父が亡くなる一年ほど前に、「葬儀はどうしたいのか」と

気持ち確かめる機会が与えられました。父が

「お前に任せる」と答えたので、「キリスト教でお葬式をしたい」と伝えると、

「それでいい」と答えてくれました。父は自分の口でイエス様を救い主として告白するまでには至りま

せんでしたが、「葬儀はキリスト教で」との思いを起こしてくださった主に感謝しました。

父は、二〇一一年十一月に逝去、池田牧師の司式により葬儀をおこないました。

父が亡くなった後、母は熱心に教会に通うようになりました。私は、母が教会に通うことについて、あまり期待していませんでした。しかし、

神様は、しっかりと母の心を捉えていてくださったのです。驚くことに、半年ほどすると

「洗礼を受けたけれど、どうすればいいの?」

と電話をしてくれました。いつの間にか、そこまでの気持ちにな

っていたのかと驚き、そして感謝して、池田牧師に電話をして、洗礼に向けての準備

をお願いしました。父が亡くなった翌年の八月、母は洗礼を受けました。

「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおおき

になる方」(エフェソの信徒への手紙 3 章 20 節)に、ハレルヤ!

早期退職して再び救世軍に

一昨年末、二十二年間働いた会社を、早期退職制度を利用



妻と母と共に。神戸小隊で



希望館の子ども集会で(左)

ます。若い時につくったこの歌は、今でも私の心意気です。

自由 (作詞作曲野本亮一) 失うことを恐れない

それが自由 祈り言葉と 賛美と

祈り合う仲間 それだけで人生は最高さ

「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」

(ヨハネによる福音書 8 章 32 節) (神戸小隊(教会)所属)

*1「らくだが針の穴を通る」話 新約聖書に出てくる話。金持ちが神に従って生きる(富に頼るのではなく、ただ神を信じ、神にすべてを委ねて生活する)ことの難しさが語られている。「イエスは……言われた。『……金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。』」(マタイによる福音書 19 章 23、24 節)

*2希望館 一九一五年に開設された児童養護施設。現在、幼児から高校生まで六十四人が共に生活している。今年、創立百周年を迎えた。

これから素直に御言葉を信じ、祈り、賛美して、イエス様に従っていきたいと思います。

私の近くの救世軍を紹介してください。

キリスト教についてもっと知りたいです。

「ときのこえ」の購読を申し込みます。

クリトリ
ご氏名
ご住所

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈スロバキア〉救世軍の働きを開始

救世軍は、9月1日付でスロバキア共和国での活動を正式に開始しました。首都ブラチスラバで開かれた式には、内務省より、ヤン・ヘロ氏が出席し、救世軍の働きは25年間待たれていた、と歓迎しました。チェコスロバキア時代、1919～1950年まで救世軍は活動していましたが、共産主義時代に撤退、25年前、チェコ共和国での活動が再開されていました。



で働かされました。劣悪な衛生環境下、食事もままならない中から救出され、心と体の回復プログラムを受けています。

〈日本〉豪雨の被災地支援

9月10日(木)の豪雨で鬼怒川の堤防が決壊し、茨城県常総市は、大規模な洪水に見舞われました。発生から1週間後も、1,300人以上の人々が、避難所での生活を余儀なくされました。



24日の支援

9月18日(金)、救世軍では、常総市内の2箇所の避難所で、被災された人々やボランティアの皆さんに対するコーヒーサービスをおこないました。ココアとアイスコーヒー、2種類のクレープを用意し、市内の石下総合体育館と水海道総合体育館で、計310人に提供しました。



東北名物ずんだ餡入りの生クリームが乗った「ずんだコーヒー」

24日(木)には、水海道総合体育館で、被災された人々やボランティアの皆さんに、東北の食材を用いた、温かい「東北丼(牛丼)」と味噌汁をそれぞれ325食、「ずんだコーヒー(アイス)」150杯を提供しました。

〈全世界〉人身売買(取引)犠牲者のための祈りの日

9月27日、救世軍は、労働力や性的搾取等の不当な人身売買の犠牲者のための祈禱日を守りました。各地で「私たちは口をとぎさない」をテーマに啓蒙運動も展開しました。



マラウイ共和国にある、救世軍の児童人身売買被害者の保護施設では、毎年120人の児童を不当な労働環境から救出し、食事、衛生、教育、スポーツ等を提供しています。14歳のスケラン君(写真)は、働きながら学校に行けると農場主に騙され、実際には早朝から夜更けま

ます。日本においては、一八九五(明治28年)に救世軍の働きが始まりました。娼婦運動の推進、女性や子どもの保護、職業斡旋、街頭給食、結核病院の設立、アルコール依存症者の回復支援など、その時々々の社会の必要に応える働きをおこなう、すべての人に与えられる神の愛を伝えてきました。現在は、四十四の小隊(教会にあたる)と十二の分隊(伝道所にあたる)、二つの病院、様々な社会福祉施設(下記参照)を通して働きを進めています。

救世軍とは

The Salvation Army

国際的なキリスト教会(テロタスタント)です。一八六五年、イギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブースによって創立されました。創立当時より、貧困にあえぐ人々、搾取されている女性たち、仕事につけない人々、お酒のために身を持ち崩した人々、十分な世話や教育を受けられない子どもたちなど、社会の光が当たらないところにいる人々の必要に応えながら、神の愛を伝えてきました。その結果、様々な社会福祉施設、病院がつけられ、学校が建てられて、今日に至っています。現在、救世軍の働きは世界百二十七の国と地域に広がり、国際的な協力体制の下、災害被災者支援、開発途上国における自立支援、人身売買阻止などの働きも積極的におこなっています。

救世軍の社会福祉施設

保育所

- 札幌市しせいかん保育園 (011-204-9560)
- 桑園保育所 北海道・札幌市 (011-221-6630)
- 菊水上町保育園 北海道・札幌市 (011-821-2879)
- 佐野保育園 栃木・佐野市 (0283-22-4081)
- 呉保育所 広島・呉市 (0823-21-4711)

児童養護施設

- 機恵子寮 東京 (03-3729-0357)
- 世光寮 東京 (03-3381-0545)
- 希望館 大阪 (072-623-3758)
- 愛光園 広島 (0823-21-6374)
- 豊浜学寮 広島 (0823-68-2029)

婦人保護施設

- 婦人寮 東京 (03-3381-0992)
- 新生寮 東京 (042-522-2306)
- 大阪アベノ地下街救世軍 カウンセリング・ルーム (06-6773-2956)

特別養護老人ホーム

- 恵泉ホーム 東京・清瀬市 (042-493-5161)
- 恵みの家(ユニットケア型) 東京・杉並区 (03-3381-7243)

ケアハウス

- いずみ(恵泉ホーム併設) (042-496-7575)
- 併設: ホームヘルパーステーションいずみ

老人保健施設

- ブース記念老人保健施設グレイス 東京・杉並区 (03-3380-1248)
- 併設: 杉並区地域包括支援センター ケア24和田
- ブース記念ケアマネジメントセンター和田
- ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ
- アルコール依存症者支援施設
- 自省館(救護施設) 東京・清瀬市 (042-493-5374)
- 男子社会奉仕センター 東京・杉並区 (03-5860-2992)

男子宿泊施設

- 自助館 東京・中央区 (03-5860-2994)
- 新光館 東京・新宿区 (03-5860-2818)

救世軍バザー場 オープン 毎週土曜日 9~14時

- 中野富士見町(東京メトロ丸の内線)より徒歩10分
- 江東出張所 オープン 毎週土曜日 10~15時
- 錦糸町(東京メトロ半蔵門線/JR)より徒歩10分

寄贈品受付、お問い合わせは03-5860-2992まで



「救世軍クリスマス 社会鍋コンサート」

11月29日(日)午後3時~4時 東京タワー 正面玄関(チケット売り場)前

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日 毎月一日・十五日 発行日及び定価 一日号一部五〇円(〒六〇円) 十五日号一部六〇円(〒六〇円) クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(〒七〇円) 一年分(三三〇円)送料七五〇円 振替:〇〇一八〇一五四四〇〇

印刷所 救世軍本営 東京(03)三三七〇八八一

クリスマス Christmas Joy

「ときのかえ」 クリスマス特集号 (12月1日発行)

- ★クリスマス・メッセージ
- ★インタビュー 樋野興夫さん (順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授)
- ★信仰の体験談 露のききょうさん ほか (落語家・女優)

ぜひお求めください! (1部100円)

2015年 感謝祭募金結果

(2015年10月8日現在)

ご協力を心から感謝し、下記のとおりご報告申し上げます。

北海道地区	962,100
関東東北地区	2,138,600
東京東海地区	7,168,470
西日本地区	2,936,750
医療部	536,866
社会福祉部	1,958,920
士官学校	1,450,479
全国合計	17,152,185

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)